

大東市歴史の散策道

～ 古堤街道を行く（東コース）～

住道駅⇔中垣内バス停（所要時間 1 時間）

住道駅から東へ古堤街道を生駒山麓まで進むコースです。終盤に坂道はありますが、ほぼ平坦なコースになっています。明治までは大阪と奈良を結ぶ鉄道はなく、生駒山地を超える街道がいくつも有り、古堤街道もその1つでした。街道周辺には江戸時代の新田開発の名残りをとどめる樋門や水路、市内で唯一の式内社である須波麻神社があります。このコースは中垣内バス停が終点ですが、ここから「東高野街道を行く（南コース）」に入り、来ぶり四条を経て野崎駅まで行くこともできます。

(始)住道駅 ⇒ 古堤街道 ⇒ 角ノ堂銘碑 ⇒ 樋門 ⇒ 平野屋新田会所跡 ⇒ 坐摩神社
⇒ 中垣内庚申塔 ⇒ 須波麻神社 ⇒ (終)中垣内バス停 → 東高野街道を行く(南コース)



住道駅



住道本通商店街と河内街道が交差する場所に立つ「古堤街道」道標

古堤街道は、奈良へと向かう主要な道路の1つでした。はじめは旧大和川堤防上や新開池北側の堤防上を進み、深野池は舟で渡っていましたが、宝永元年(1704)大和川の付替えによって、深野南新田内を横断する現在のルートになりました。



安楽寺前



角ノ堂銘碑

安楽寺というお寺の前に角ノ堂銘碑があります。明治22年(1889)六つの村が合併して住道村が誕生しました。その際、寝屋川と恩智川の合流地点にあった「角堂」という地名をとり、「住道」と名づけられました。これはかつての地名を伝える貴重な歴史資料です。

角ノ堂銘碑



恩智川を渡り古堤街道をさらに東へ進むと、銭屋川の水路に「さんだんもの樋」と呼ばれる樋門を見つけることができます。大和川付替え以降、新田に作られた井路(水路)には、農業用水の調整の為に、樋門が設けられました。この樋門に弘化2年(1845)と記されているように、この地域では、江戸時代後期に多くの石の樋門が作られたことがわかっています。



坐摩神社



平野屋新田会所跡

樋門より銭屋川に沿って少し北に歩くと、住宅地の中に空地が見えてきます。ここは、かつての平野屋新田会所跡で、米蔵や船着場があった場所です。会所とは、江戸時代、豪商や寺院によって開発された新田を、現地で管理・運営するために設けられた施設のことです。東側にある坐摩神社は、会所設置にともない大坂の坐摩神社より勧請されたものです。



取り壊し前の平野屋新田会所(長屋門)



須波麻神社

中垣内庚申塔の南にあるのが、須波麻神社です。祭神は大国主命で、現在の社殿は明治36年に建てられました。「須波麻神社」は平安時代の書物『延喜式』『神名帳』に記載のある式内社であることから、『延喜式』の完成する延長5年(927)以前には存在していたと考えられ、それは奈良時代に、西大寺の荘園のひとつとして「渚濱庄」という地名があることから伺い知ることができます。



中垣内庚申塔

外環状線(国道170号線)を越え、さらに山側に向かうと東高野街道と交差します。そのまま坂道を山麓まで歩くと、江戸時代の庶民信仰の1つ、庚申信仰を伝える中垣内庚申塔があります。60日に1度来る庚申の夜、人の体に棲む三尸と呼ばれる虫が天帝にその人の罪を報告するといひます。その虫が報告に行かぬよう、庚申の夜は庚申塔の前で寝ないで一夜を過ごすというものです。

